



令和元年 11月7日(木) 第25号



「心をこめる」ということ



職場体験学習【11月14日(木)・15日(金)実施】が来週に迫ってきました。明日の8日(金)の午後は、生徒たちだけで、お世話になる事業所へ事前訪問にうかがいます。いよいよ、キミたちの“ファーストコンタクト”です。すでに事業所別の取り組みの中で、事前訪問する際の“あいさつ”の練習をしました。とはいえ、事業所のみなさんもお忙しくされています。きっとバタバタされている合間を、時間を割いて事前訪問の対応をしてくださいます。だから、キミたちの“練習”通りに事前訪問が進むとも限りません。それでは、せっかく“練習”したあいさつは「意味がなかった」ということになってしまうのでしょうか？ 「練習する必要がなかった」のでしょうか？



事前訪問に際して、あいさつの言葉を考え、同じ事業所に行く人と一緒に練習しました。班長は、放課後に班長会議をしました。また、職場体験学習当日までにキミたちのことを少しでも知っていただくため、大人でいうところの“名刺”にあたる「自己紹介カード」も作りました。どの取り組みにもそれなりの《時間》がかかっています。この《時間をかける》ということが大切なのです。時間をかけているうちに、「事前訪問」や「職場体験」という取り組みに対して、**気持ち・心・思い**がこめられます。それが《心をこめる》ということです。きちんと事前訪問のことを考えれば考えるほど、「職場体験学習」への思い入れが強くなっているので、その思いは必ず事業所の人へ伝わるでしょう。そのことは絶対に**意味のあること**だし、やはり**練習する必要はあった**のです。



事前訪問が“練習”通りに進まないこともあれば、緊張で、言葉遣いがおかしくなることもあるでしょう。でも、大切なことは、その態度、その言葉に心がこめられているかどうかということです。キミは、あいさつの練習、自己紹介カードの作成を、どれだけ丁寧に、熱心に、時間をかけて取り組んだでしょうか。つまり、そこにどれだけ心がこめられているでしょうか。現代は、ともすれば「要領よく」、「効率よく」、「短時間で」、「手っ取り早く」といったことが“良いこと”だと思われがちです。確かに、要領よく、効率よく、短時間で、手っ取り早く済ませられる作業もあるでしょう。しかし、生身の人間を相手にした取り組みは、時間をかけて、心をこめて取り組まないといけません。事業所の方との“ファーストコンタクト”、キミたちの誠実な心を込めて取り組みましょう！！



ゆる [緩み]を見逃すな！



私たちは日常生活の中で、同じようなことを繰り返していると、次第に慣れてしまって、少しずつ気持ちが緩んできます。決して良いことではありませんが、大人でも子どもでも、本当に、誰にでもそういうところはあります。ただ、だからといって、放っておいてよいことではありません。前もってそうなることがわかっているのなら、その《気持ちの緩み》に早く気づいて、引き締め直すことが必要です。でも、その《緩み》は「気持ち」のことだから、そのままでは目に見えません。その代わり、目に見える“別の形”であらわれます。典型的な3つの《あらわれ方》を紹介します。

① 服 装

「服装の乱れは心の乱れ」という言葉は、やはり間違っていないようです。シャツが出ている・ボタンや袖のホックが外れている・襟や名札にバッジが付いていないなどといったことは、すべて「少しぐらいいいだろう」という《気持ちの緩み》です。

② 学 習

《気持ちの緩み》は「授業の受け方」にあらわれます。持ち物を忘れる・机の上に教科書等を準備しない・板書をノート等にかかない・私語・居眠りなどといったことも、すべて「少しぐらいいいだろう」という《気持ちの緩み》です。

③ 行 動

気持ちが緩んでくると、行動が緩慢になり、それは真っ先に「時間にルーズになる」という形であらわれます。ここでは、登校時間が遅くなる・授業の準備が遅くなる・教室への入室が遅くなる・集会への集合が遅くなる・遅れていても急ごうとしないなどといったことが、「少しぐらいいいだろう」という典型的な《気持ちの緩み》です。さらに、待っている人がいるのに「急ごうとしない」のは、ワガママ・勝手・自己中心的な態度であり、《気持ちの緩み》はさらに深刻な状態であるといえます。



どうでしょう？ キミたちの周りに、このような人はいないでしょうか？ 先生たちは、思っているよりたくさんの人に、これらのような《緩み》が見られる状態であると心配しています。恐ろしいのは、《気持ちの緩み》は、自分では気づきにくいということです。そして、《気持ちの緩み》を放置すると、時間の問題で“乱暴な言動”、つまり、ケンカやいじめにつながって、体や心が傷つく人が出てきます。61期生の中から、傷つく人や、人知れず涙を流している人を出してはいけません。でも、《気持ちの緩み》は、それらと呼ばれ込むもので、放置することは絶対にできません。

学年も後期が始まったこの時期、また《緩み》を引き締め直す時期に来ているように思います。仲良くなってきたからといって、《気持ちの緩み》を放置してしまっているのでしょうか？



保護者のみなさまへ

“気持ちの緩み”を話題にしましたが、気をつけなければならないのは、子どもたちだけでなく、私たち大人も同じだと思って、気をつけています。大切なのは、“気持ちの緩み”に自分で気づいて自分で引き締めることができるようになることです。その点では、私たち大人が子どもたちをリードしたいと思います。保護者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。